Ⅴ　研究の成果と課題

「他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成」という研究テーマを掲げ，今年度から３か年計画で研究をスタートさせた。

めまぐるしく変化していく今日，子どもたちが成長していく上で大切なことは何だろうと考えたときに，私たちは「他」との直接的なかかわり，つまりよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できることであると考えた。

今年度は「他」の中の「人」に着目し，子どもたちが人とのかかわりの中でどのような姿（自分らしさ）を見せているのかを追究してきた。

研究の成果と課題について「保育者としての援助の在り方」，「環境構成の工夫・改善」の面からまとめてみたい。

人とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿と保育者としての援助の在り方

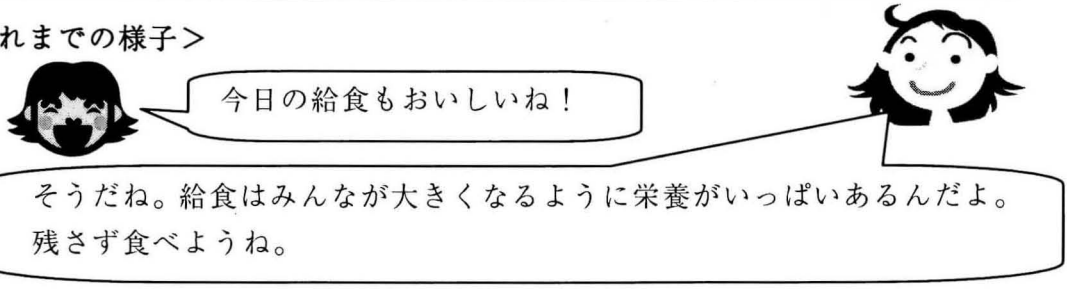
《成果》

○　自分らしさを発揮する子どもの姿を年齢ごとに分析したことで，子どもの発達段階に合わせて保育者としてどのように援助の工夫をしていけばよいのかを見直すことができた。

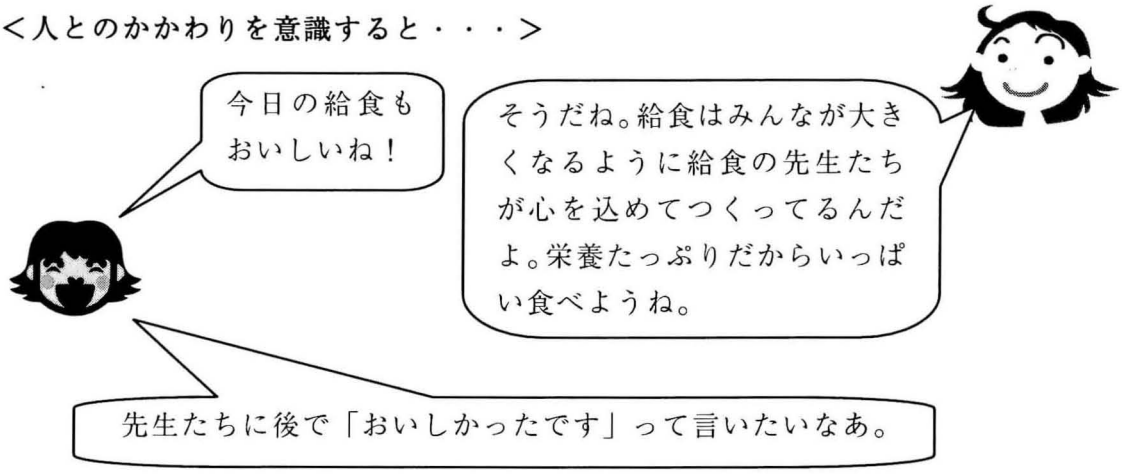
○　子どもたちがかかわっている「人」を意識して保育に当たるうちに，保育の中での子どもたちへの言葉掛けを意識する大切さを実感することができた。

例１　給食の先生　ありがとう

＜これまでの様子＞



＜人とのかかわりを意識すると・・・＞



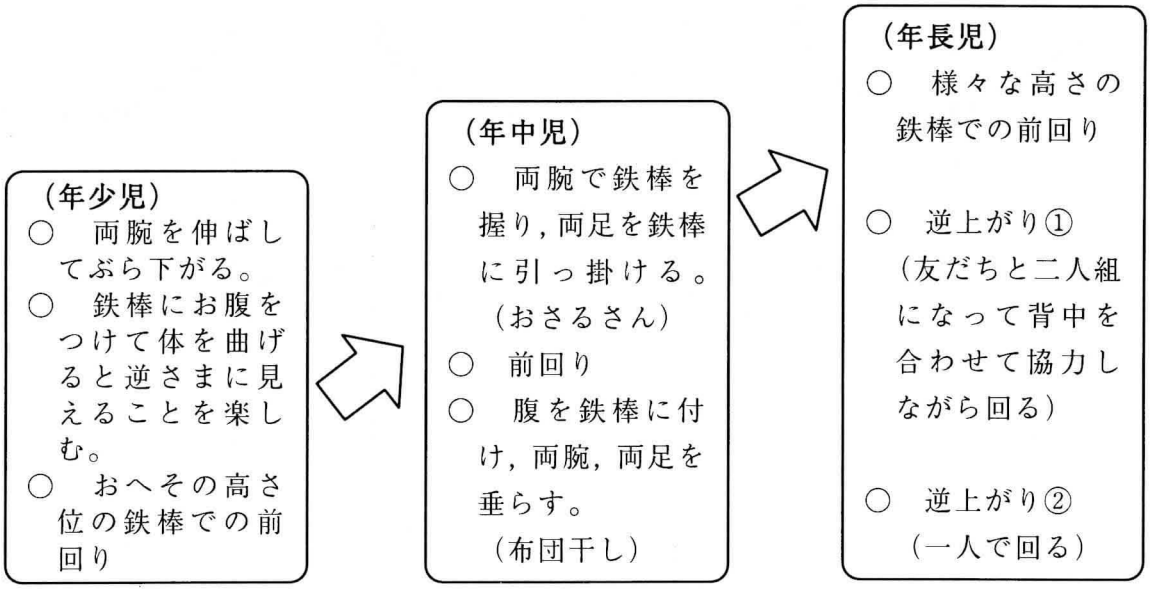
○　子どもたちが自分らしさを発揮できるようになるために，保育者として「見守る」「待つ」「直接かかわる」などの見極めの大切さを再認識することができ，年齢ごとに援助のポイントをまとめることができた。（Ｐ５０，５２，５４）

○　自分らしさを発揮できるようになるには，新しいものや人と出会う喜びはもちろんのこと，試行錯誤や葛藤などが生まれるような心地よい負荷を保育者として与えることも必要であることが分かった。

例２　鉄棒に挑戦しよう（心地よい負荷を与える）

鉄棒は，ぶら下がったり回ったり，上ったりなど，体を動かす楽しさを存分に味わうことができる遊具である。鉄棒遊びでは，友だちとのかかわり合いが多く見られ，互いに刺激し合いながら少しずつ難しい技にも挑戦する姿が見られる。

＜鉄棒遊びにおける保育者が子どもたちに提案した心地よい負荷＞



《課題》

○　今後も継続的に「人」「もの」「自然」とのかかわりをさらに分析し，様々な場面における具体的な保育者の援助の在り方や環境構成の工夫についてまとめていきたい。

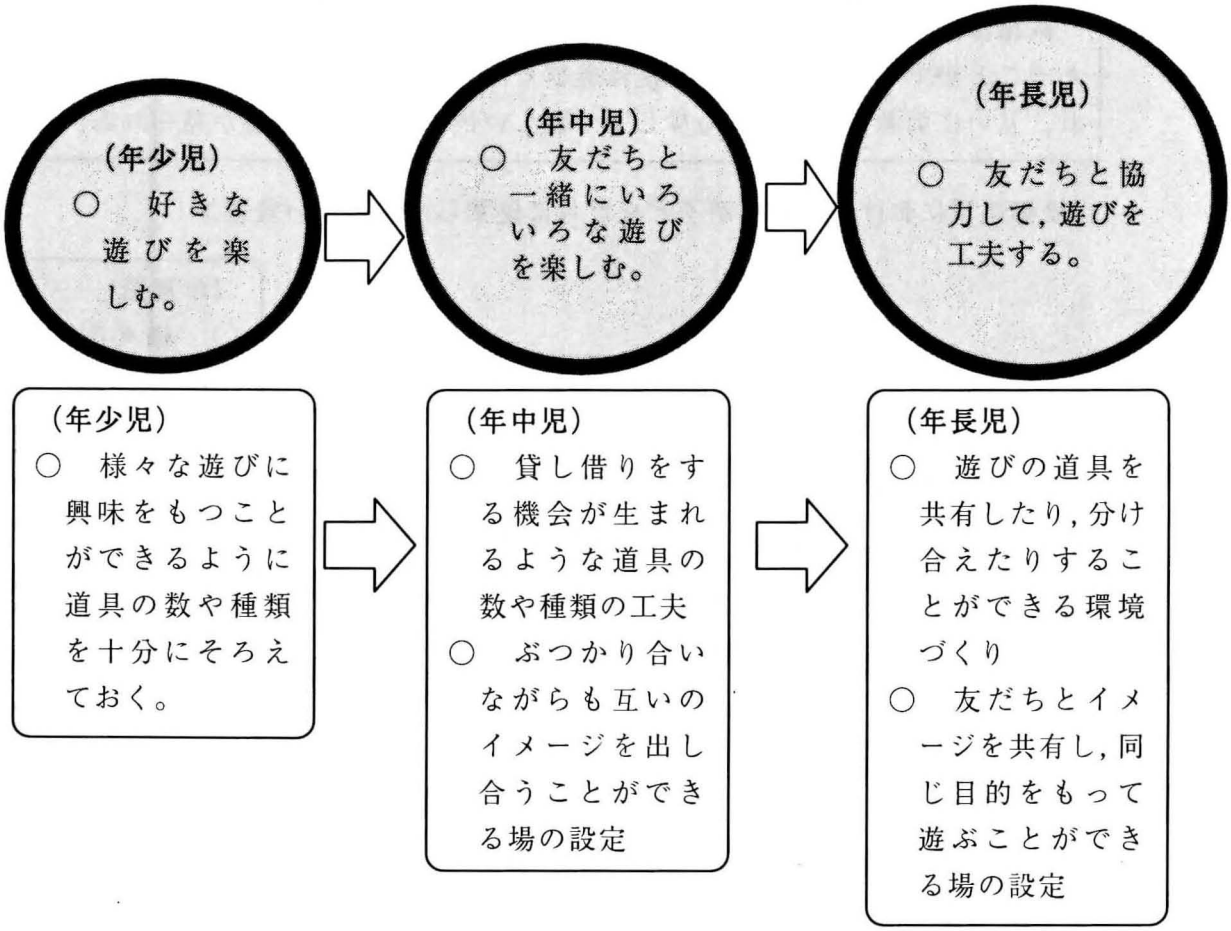
○　子どもたちが自分らしさを発揮する姿が，小学校生活へもつながっていけるように，子どもの発達や学びの連続性を意識した教育課程･指導計画づくりに努めたい。

人とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿と環境構成の工夫・改善

《成果》

○　各年齢の目指す姿に合わせて,「人とのかかわり」の視点から子どもの発達段階に合わせた環境構成について見直すことができた。

例　友だちとかかわる楽しさを味わえる環境構成の工夫



《課題》

○　引き続き記録の蓄積に努め，記録をもとに環境構成を工夫・改善し，教育課程・指導計画作成に生かしていきたい。